

# 論文審査の結果の要旨

氏名 ウェン リン ダン

本論文は「MANAGING STUDENT DIVERSITY FOR SUSTAINABILITY EDUCATION IN HIGHER EDUCATION SETTINGS（高等教育の場におけるサステナビリティ教育のための学生の多様性活用）」と題する。

サステナブルな（持続可能な）社会の構築は国際社会における重要な課題である。そのための人材育成・教育を国際的に展開することを目的に、2002年にヨハネスブルグで開催された「持続的開発のための世界首脳会議」（ヨハネスブルグ・サミット）において、「Decade of Education for Sustainable Development – DESD（持続的開発のための教育の10年）」の実施が決まり、2005-2014年にすでに実施されている。一方、持続的開発のための教育において、どのようにして教育効果をあげるか、そのための教育手法をどう構築するかについては、サステナビリティにかかわる学術分野の多様性、国際社会の文化の多様性のために、必ずしも共通の認識が得られていない。とくに教育における多様性の扱い方が課題となっている。

本論文は、そのような認識のもとで、サステナビリティに関わる教育（本論文ではそのような教育を広く「sustainability education（サステナビリティ教育）」と呼んでいる）において、学生の多様性がどのような意味を持ち、多様な分野・文化の学生を含む集団を対象にサステナビリティ教育を実施する場合に多様性をどう利用したら良いのかを、とくに高等教育レベルで教員の立場から扱ったものである。本論文は6章からなる。

第1章「Introduction」では研究の背景を述べた上で、2つの研究目的を提示している。すなわち、1) 学生の多様性が教育効果に影響をあたえるメカニズム、および、2) 学生の多様性を利用して教育効果を上げるための教育手法、の2点を明らかにすることを目的としている。

第2章は「Review: Sustainability, Education and Diversity」と題し、学生の多様性、教育手法、持続的開発のための教育（ESD）などについてのレビューを行い、本研究に関連する情報をまとめている。第3章は「Methodology」と題し、本研究で用いた研究手法を記述している。

第4章「Results」、および、第5章「Discussions」が本研究の骨格をなす部分であり、具体的な研究成果を説明している。まず、学生のもつ多様性の中で、専門分野および文化の多様性を取り上げることとした。そして、サステナビリティに関わった経験を持つ世界中の高等教育機関（大学・大学院）の教員を対象としたアンケート調査、サステナビリティ教育の専門家に対するインタビュー、サステナビリティを標榜する教育プログラムに対しての個別調査、サステナビリティ教育を受けた学生からのフィードバック、そして、サステナビリティを扱うベトナムでの教育現場での教育実践を通じた観察をおこない、学生の多様性が教育の中でどのように扱われ、どのような意味を持っていたのかを考察し

た。そのような検討を通じて、サステナビリティ教育の手法として、構成主義（constructivism）から結合主義（connectivism）への展開が鍵であることを指摘した。すなわち、学生の専門分野・文化的背景の多様性は、複雑なサステナビリティ問題に関わる要素の関連を理解させ結合主義的なアプローチを進める上で重要であるが、そのことは教室の中で自動的に起こるのでは無く、様々な情報を構造化する構成主義的なアプローチに支えられつつ教師が学生同士の相互交流を適切に誘導することが不可欠であるとした。

第6章は「Conclusions」であり、以上、考察してきたことのまとめとして、サステナビリティ教育において教員の最も重要な役割は、教えることではなく、学生間の多様な人格・知識・スキルの結合を促す補助者としての役割であると結論づけた。

以上のように、本論文は、サステナビリティ教育において学生の多様性が持つ意味を整理し、それを教師がどのように利用すべきかについて、重要な示唆を与えている。よって、サステナビリティ学の発展に大きく寄与するものである。

なお、本論文の主要部分は、味埜俊、北村友人との共同研究の成果であるが、論文提出者が主体となって分析及び検証を行ったもので、論文提出者の寄与が十分であると判断する。

したがって、博士（サステナビリティ学）の学位を授与できると認める。

以上 1932 字